2025 8月 Vol.3
西郷港周辺まちづくり　海とまちをつなぎ　世代をつなぐまちづくり

NEWS LETTER

隠岐の島町　都市計画課　電話 08512-2-8580

Instagram で まちづくりの情報を 発信しています

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.3 をお届けします。 このニュースレターでは、 現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせします。

開催報告

「まちづくりシンポジウム」を開催しました

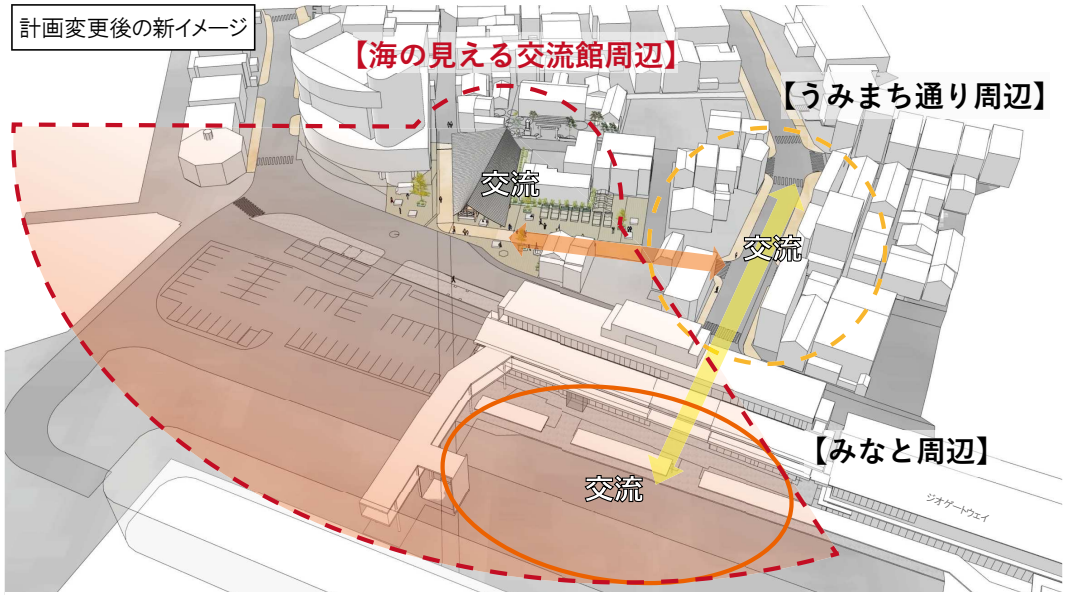
開催日時：令和 7 年 6 月 22 日（日） 13:30 ～ 17:00　**開催場所**：役場町民ホール

内　　容：【講演】①西郷港周辺まちづくりの経緯と展開
②隠岐の島町再生をみんなで楽しく
【パネルディスカッション】
①交流館 1 階での飲食・物販を中心とした交流の展開について
②交流館と広場の設計について

今回のシンポジウムでは、西郷港周辺まちづくりの全体像と、2年後のオープンを目指している**「海の見える交流館」**の計画概要が共有されました。

初めに、石田傑都市計画課長が「西郷港周辺まちづくりの経緯と展開」について説明しました。この中で、海の見える交流館の周辺計画の変更について詳述しました。当初は出雲大社西郷分院と海を結ぶ大社分院通りを整備する計画でしたが、**交流館とその周辺広場を一体として海側に開く方針に見直しました。**この新たな方針により「海とまちをつなぎ 世代をつなぐ」という目標を達成する計画となったことを述べました。

計画変更後の新イメージ



次に、滋賀県立大学名誉教授であり、海の見える交流館設計コンペ審査委員長を務めた布野修司氏によるビデオレターが上映されました。このビデオレターでは「隠岐の島町再生をみんなで楽しく」をテーマに、地域の生態系を活かしたコミュニティベースのまちづくりの重要性が語られました。インドネシアの「カンポン」の事例を紹介し、地域住民や各分野の専門家など、様々な関係者が協力し取り組む大切さが強調され、西郷港周辺まちづくりでも多様な人々が関わって進めていく必要性が示されました。

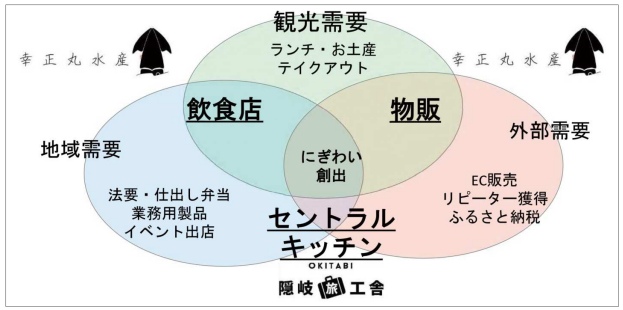
シンポジウム開催にあたり挨拶をする池田高世偉町長

西郷港周辺まちづくりについて説明をする石田傑都市計画課長

コミュニティベースのまちづくりの重要性を語る布野修司氏

パネルディスカッションでは、交流館1階の活用について、運営者である隠岐旅工舎&幸正丸の八幡洋公氏から説明がありました。地元の食材を使った料理を町民や観光客が楽しめる場となる計画や、セントラルキッチンを導入することで効率的な食材加工が可能になる仕組みが紹介されました。

交流館1階の活用について説明をする隠岐旅工舎&幸正丸　八幡洋公氏



セントラルキッチン、飲食店、売店を運営し、仕入れから消費までを一貫して行う構想を示すイメージ図

続いて、設計者である河内建築設計事務所の河内一泰氏からは、軒下広場を備えた交流館の設計内容の説明がされ、多目的利用が可能な空間の提案がされました。

交流館の設計内容の説明をする河内建築設計事務所　河内一泰氏

海の見える交流館の最新イメージ図

終盤には、運営者、設計者、町長、ファシリテーターの東京工業大学名誉教授で西郷港周辺まちづくりアドバイザーの桑子敏雄氏を交えた参加者との意見交換が行われました。ここでは西郷港周辺まちづくりの今後の展望や具体的なアイディアが活発に議論されました。

参加者からのご意見・ご質問と回答（意見交換、アンケートより抜粋）

ご意見

軒下広場は利用価値が高い。他の地区の人たちも市場や屋台出店ができ、西郷港が他の地区とつながるきっかけになる。

運営者の回答

軒下広場で、夏場のビアホールや朝市の定期開催を考えています。誰もが心地よく過ごせるスペースを目指します。

ご質問

地産地消の方法についてどのように考えているか。

運営者の回答

地産地消を推進するためには、事前に農業者や漁業者と話し合い、「どんな野菜や魚が必要か」を共有することが重要だと考えます。これにより、**需要と供給のバランスを取りながら、効率的で持続可能な取り組みを行いたいです。**

ご質問

交流館や広場を活用しながら、どのように地域全体を魅力的にする計画を進めていくか。

設計者の回答

交流館と広場を含む、地域全体を**歩きたくなるような広がりを持つまちづくりを目指します。**皆さんの意見を聞きながら、工夫して地域の魅力を活かした計画を進めていきます。

ご意見

バスなどの公共交通と連携し、高校生が利用しやすくなれば良い。

町の回答

地域の公共交通の改善については引き続き取り組んでいきます。**西郷港周辺についても様々な方のご意見を聞きながら検討を進めていきます。**

ご意見

まちづくりにおいて民間事業者が主導して動く力が不足していると感じる。
交流館はPFI方式で進めているとのことだが、賃貸とどう違うのかがわからない。

町の回答

交流館は、運営者が設計段階から関わることで、利用しやすく運営もしやすい建物を目指しています。この手法により、民間事業者との協働を通じて、効率的な運営と地域の持続可能な発展を実現します。

ご意見

シンポジウムの参加者が少ないと感じる。まちづくりの情報周知が不足しているので、もっと住民を巻き込む工夫をしてほしい。

町の回答

次回以降のイベント等では事前告知の改善に努め、より多くの皆さまにご参加いただける形を目指します。**ニュースレターの発行、インスタグラム、ホームページでの発信など、情報発信の強化に取り組んでまいります。**

意見交換では、参加者の皆さまから幅広い視点のご意見をいただきました。海の見える交流館をはじめ、西郷港周辺まちづくりは着実に進展しています。町民皆さまの声を大切にしながら魅力的で持続可能なまちづくりを目指してまいります。

うみやまもっとあつまれ 活動報告

西郷港周辺まちづくりの情報発信拠点「うみやまもっとあつまれ」では、情報発信に加えて、まちなかに にぎわい を生み出すために様々な活動をしています。ここではその活動の内容を町民の皆さまにお知らせします。

報告1

隠岐高生がつくる「にぎわいの場」うみやまもっと広場を華やかに

隠岐高校商業科3年生まちづくり班と共に、うみやまもっと広場をより魅力的な場所にするための取り組みを進めました。高校生たちが考えた「にぎわい」とは、笑顔が溢れる人々の集いの場。どうしたら広場がそうした場所になるかを話し合い、試行錯誤を重ねてアイデアを形にしました。

まず、「座りたくなるベンチ」を作ることを決定。ベンチや広場壁面の色を試作しながら選定し、7月5日にイベント「うみやまもっと広場華やか大作戦」を開催しました。このイベントでは地域の子どもたちと一緒にベンチにペイントをしました。

完成したカラフルなベンチは、広場に新たな魅力を生み出しました。高校生たちの熱意と地域の協力によるこのプロジェクトは、うみやまもっと広場を誰もが訪れたくなる場所へと変えていく第一歩になりました。

イベントの様子

完成したベンチと記念撮影

報告2

隠岐水産高生がつくる「隠岐水ラーメン」の試食販売会を開催

隠岐水産高校海洋生産科3年生が、実習授業の一環として「隠岐水ラーメン」の開発に取り組んでいます。その取り組みの中で、サバ出汁のラーメンスープ試飲会が7月5日の「うみやまもっと広場華やか大作戦」で行われました。

さらに、7月10日には、うみやまもっと広場で隠岐水ラーメンの試食販売イベントが開催されました。地域の方々が隠岐水ラーメンの味を堪能し、広場はにぎわいに包まれました。

イベントの様子

予　告

うみやまもっと広場に大型ディスプレイが設置されます

株式会社サードウェーブ様より、企業版ふるさと納税を通じて寄附をいただき、この寄附を活用して、うみやまもっと広場に大型ディスプレイを設置します。ディスプレイは、まちづくりの情報発信やパブリックビューイング、eスポーツイベントなどで活用される予定です。設置は10月頃に予定されており、うみやまもっと広場で新たなにぎわいを創出します。